

#### (6) 国際関係学教育における学士力の考察

CCC国際関係学運営委員会は、21年6月、7月、10月、11月の4回開催した。国際関係学の分野では、国際事象の説明力、国際的で多角的な価値について科学的な調査・分析ができる力、地球的次元での政策提言力に重点を置いて検討した。その上で、サイバーFD研究員105人に意見を求め、11人(10%)の意見を踏まえ、以下の通りとりまとめた。ここでは、「コア・カリキュラムのイメージ」、「測定方法」を割愛したので、詳細は資料編【資料5】を参照されたい。

##### 【到達目標1】

国家、地域、国際組織、多国籍企業、NGOなどで構成される国際関係の基本的な仕組みとその背景を理解できる。

##### 【到達度】

- ① 国際社会におけるさまざまな行為主体の概念と定義を理解している。
- ② 基本的な国際関係の事実を理解している。
- ③ 国際政治・経済・社会・法における基本的原理を理解している。

##### 【到達目標2】

国際的な事象・課題などについて、国家、地域、国際社会の観点から調査し、多角的価値・複合的な視点から分析・説明できる。

##### 【到達度】

- ① 国際的問題あるいは課題の発見、把握のために適切な文献検索・資料を収集・整理できる。
- ② 正確な情報にもとづいて科学的・客観的な手法で分析できる。
- ③ 多角的な価値に配慮し、理論の比較などによる複合的な視点に立って、考察・評価できる。

##### 【到達目標3】

国際社会と国家、個人などとの関係を認識し、地球的規模で人類共通の問題解決に向け支え合う態度を身に付ける。

##### 【到達度】

- ① 国際平和を連携・協調して実現する価値を説明できる。
- ② 地球的問題群を理解し、具体的な課題に対する政策提言ができる。
- ③ 政策提言を踏まえて議論し、自己修正できる。

### (7) 国際関係学教育における情報教育

CCC国際関係学運営委員会は、学士力考察をとりまとめた後、21年12月、22年2月に2回開催した。検討は、国際関係を理解するための映像、ファクトデータの重要性の理解、情報倫理と情報の信頼性の識別、課題の実証のためのデータの比較・分析、情報通信技術を用いて国際的に発信させるなどを取りあげた。

#### 【到達目標1】

国際的な事象・課題について、適切な情報の収集・整理ができる。

#### 【到達度】

- ① 国際関係論に関する情報の所在・構成・背景を知っている。
- ② 情報の信頼性を識別でき、情報の引用に関する倫理を身に付けている。
- ③ 情報検索とソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション)などの基本的な情報処理能力を身に付けている。

#### 【教育内容・教育方法】

- ①は、多角的な視点から、実際にWebにアクセスさせて、国際関係を理解しうる映像・画像・ファクトデータなどの重要性を理解させる。
- ②は、講義などにより、信頼性と倫理について、具体的事例を通じて理解させる。
- ③は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを国際関係の授業に応じて使用させ、レベルアップを図る。

#### 【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、教育・学習支援システムなどにより、レポート、小テストなどで確認する。

#### 【到達目標2】

収集した情報を分析し、課題の実証、問題の発見に役立てることができる。

#### 【到達度】

- ① 目的に沿ってデータの比較、対照、処理ができる。
- ② 多様な情報(意味づけされたもの)の比較、分析ができる。

#### 【教育内容・教育方法】

- ①と②は、講義などにより、映像・画像・ファクトデータを含む一次情報の分析手法を提示し、課題の検証、発見を自ら体験させる。

#### 【到達度確認の測定手段】

- ①と②は、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。

#### 【到達目標3】

コミュニケーションに情報通信技術を活用し、発表することができる。

#### 【到達度】

- ① コミュニケーションの内容・対象に応じて、適切なメディアを選択できる。
- ② マルチメディアを活用して意見発表し、他者との意見交換の中で持論を見直すことができる。

#### 【教育内容・教育方法】

- ①は、演習などにより、課題研究の成果を適切なメディアを通じて国際的に発信させる。
- ②は、マルチメディアによる報告と議論を通じ、課題に対する理解を深め、新たな問題発見を促す。

#### 【到達度確認の測定手段】

- ①と②は、プレゼンテーション、論文などにより確認する。